



NO.1004
2015/1/25
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二四四五八
F四三二四四五七

新春のつどい

日本共産党と後援会が共催で行う「新春のつどい」が、1月25日に行われます。

第1部では、主催者あいさつと、いっせい地方選挙の市議選挙の松浦さとし、きくち宏予定候補者が決意を述べます。

第2部は、詩吟、フラダンス、うたごえ、集団的自衛権行使容認を厳しく批判する寸劇があり、最後に、ピョンゲームとじゃんけん大会があり、楽しい催し物がたくさんあります。実行委員会では、多くのみなさんのご参加をお待ちしていますと呼びかけています。

2015年 新春のつどい



みなさん、お誘い合わせの上、ご参加ください。

日時 1月25日(日)

午後1時30分～3時30分

場所 エコーセンター 2階大会議室

会費 千円(中学生以下無料)

主催 日本共産党網走市委員会、日本共産党網走市後援会

市議会

報告会開催!

網走市議会は、1月26日(月)午後6時からエコーセンター大会議室で、網走市議会報告会を開催します。

テーマは網走市議会基本条例(素案)の策定についてです。

この間、市民のみなさんからのご意見(パブリックコメント)を12月8日から1月8日までの1カ月間行い9名の方から貴重なご意見が寄せられました。それらのご意見も一部取り入れながら取りまとめられたので、その経過についても報告されます。

この市議会報告会は、議会運営委員会が中心となって行います。

当日は、座長として議会運営委員長七ヶ委員長、副座長に高橋副委員長がなり、司会は古都議員で進められます。報告は、七ヶ議会運営委員長と近藤議員が行います。網走市議会は、多くのみなさんご参加を呼びかけています。



東奔西走

20年前の17日の未明のM7.3の阪神・淡路大震災は6434人が犠牲になり、神戸市を中心に周辺都市を壊滅的な被害に被りました。私は会社の陸上合宿で神戸にいてこの地震に被災しました。

20年経って表面上の復興は進んだといっても、仮設と復興住宅での「孤独死」は昨年までで1100人近くにのぼると言うから、後遺症はひどいものです。被災者が個人補償を拒否され、20年経っても住宅ローンや借入金返済に苦しむ現実を政治はしっかりと向き合う責任があります。軍事費が毎年増え続け、被災者が置き去りにされる政治を今こそ変えなければなりません。

菊地ひろし

私の暮らす町内会の総会が開かれました。高齢化の波はいなめませんが、無事新しい役員も決まり終了しました。総会では「西山通りの交通量が多く、子供たちを守るために停止・とまれ」の標識や信号機の設置、交通指導員が必要ではないか」など積極的な意見が出されました。

町内会の老人会では交通安全街頭啓発活動の支援活動を年4回おこなって頑張っています。さてまたまた雪が降って大変です。本道や歩道の除雪や排雪をしっかりと歩きやすい道の確保は、高齢者にとって大変重要なことです。通りの向かい側にあるバス停に行くためには、冬は本当に命がけです。

松浦 奮戦メモ

先週、町内会の総会と新年会が行われました。総会では、私が議長になり会議を進めることになりました。総会の時間は1時間でした。

が、何とか時間ぎりぎりに終了することができました。今年も、役員交代は班長さんだけなので前段の会議もすんなり終わりましたが、来年は、主要な役員が入れ替わることとが予想されますので、もめるかもしれません。ご多分にれず私の町内会も高齢化が進み役員を引き受ける方が、なかなか見つからない状況です。

私も議員をしながら会長をしたことがありますが、駒場住民センター建設があり、月に何度も会議がもたれて、大変だったことが思い出されます。しかし、地域になくてはならない組織です。1年間班長をしましたが、町内会のみなさんのご協力に感謝です。

流水

昨年30日から娘夫婦と孫4人の1家族が10何年振りに勢揃いし来阪した▼平素静まり返っている我が家の様子は一変、玄関は大きな靴でいっぱい、手荷物といってもコロコロがないと動かせないほどのトランクが1人1個づつ部屋の内側に置くと見る間に部屋が狭くなってしまう▼4人の孫はアルバイトと部活に精をだしや々と全員一致したのがこの日から3日までだった(3日には1人が抜けた)在阪中孫たちは事前に計画していた所へ遊びに行ったり、買い物に出かけたり、おいしいものを食べたり時間を有効に使っていたが年寄りの私には真似のできないすごいエネルギーだと感心した。そして久しぶりに見る孫たち、個性の違いも分かった▼就活で悩む長女、友達大好きな次女、もっぱらおしゃべりな三女、バレー部の事で頭いっぱいなの四女、四姉妹なのに「みんな違ってそれがいい」そんな思いで見えていた。次に揃って会えるのはいつだろうか▼帰途、空港へ送る途中おじいちゃんに会って帰ろうと「一心寺」に立ち寄った。このお寺は骨仏と宗教を問わず誰でも祀られ、誰でもいつでもお参りできる寺として毎日大勢の参拝者が絶えない。広い境内を歩きながら「ここならおじいちゃん寂しくないね」初めて一致した孫たちの感想だった。

(継)